

【授業科目】課題研究Ⅱ（急性看護学）Master's Thesis for Certified Nurse Specialist Course Ⅱ

| 担当教員                              | 開講年次  | 選択必修 | 単位数  | 時間数     | 授業形態 | オフィスアワー |
|-----------------------------------|---|------|------|---------|------|---------|
| 吉田和枝、杉崎一美                         | 2年次後期   | 選択   | 2    | 30      | 演習   | 巻末掲載    |
| 授業概要<br>(内容と進め方)及び課題に対するフィードバック方法 | <p>高度実践看護者として看護ケアの質向上に貢献できるために、クリティカル看護ケアが必要な患者・家族または集団に対して卓越した看護実践する力（コンピテンシー）、看護職者の教育機能を促進する力、コンサルテーションの能力、保健医療福祉に携わる人々の間での調整能力、倫理的意思決定への支援等に関する研究課題を明確にし、科学的根拠に基づいた解決的アプローチによって検証する。研究計画に沿ってデータの収集・分析・結果の記述・考察を行い課題研究論文として完成する。授業は実務家教員（吉田、杉崎）が進める。学生の疑問、もしくは教員の課題提起に対してその場で議論をしながら理解を深める。</p> <p>課題に対するフィードバック方法／提出されたレポート・修士論文について、口頭での指導及びコメントをつけて返却する。学位論文審査結果に応じて修正後の修士論文について、口頭での指導及びコメントをつけて返却する。</p> |      |      |         |      |         |
| 授業の位置づけ                           | 本大学院のディプロマ・ポリシー①、③、④の達成に寄与している。   |      |      |         |      |         |
| 到達目標<br>(履修者が到達すべき目標)             | <p>①対象者に倫理的配慮をしたうえで適切な研究方法を用いてデータを収集し、客観的・科学的に分析できる。</p> <p>②研究結果をわかりやすく記述し、客観的・科学的な考察を加えて論文を作成できる。</p> <p>③研究成果としての新しい知見の妥当性・信頼性について客観的な評価を受け、論文の完成度を高めるために修正することができる。</p> <p>④研究の結論から、看護実践への提言と研究の限界について認識を深めることができる。</p>   |      |      |         |      |         |
| 時間外学習に必要な内容・時間                    | <p>適時助言する（各60分）。</p> <p>※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間（2単位15回科目の場合：予習+復習4時間/1回）（1単位15回科目の場合：予習+復習1時間/1回）（1単位8回科目の場合：予習+復習4時間/1回）を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。</p>  |      |      |         |      |         |
| 授業計画                              | <p>第1・2回 研究対象者、研究協力施設との調整</p> <p>第3～6回 データ収集・整理、データの保管</p> <p>第7～10回 データ分析 研究デザインに応じたデータ作成、指導者からのスーパービジョンの受け方</p> <p>第11～14回 修士論文の作成<br/>1) 序論 2) 方法 3) 結果 4) 考察<br/>5) 看護実践への提言 6) 結論 7) 要約</p> <p>第15回 発表と評価</p>  |      |      |         |      | 吉田、杉崎   |
| 評価方法<br>評価基準                      | 学位論文審査（学位規程による）   |      |      |         |      |         |
| 教科書                               | 適宜紹介する。   |      | 参考書等 | 適宜紹介する。 |      |         |